

2020年度 決算概要

2021年5月10日
沖電気工業株式会社

事業概況、ご説明のポイント

■ 2020年度通期業績について総括

- ✓ 中期経営計画2022の初年度として概ね想定した範囲で着地。
- ✓ 事業環境は一部で厳しさはあるものの、総合力でリカバリー。

■ 「中期経営計画2022」初年度の取り組みを総括

- ✓ コロナ影響：海外では期初想定を超えて長期化、一方国内では比較的限定された影響にとどまる。
- ✓ 構造改革：設計リソースシフト、関係会社再編などの施策を着実に推進。
- ✓ ソリューションシステム：DX領域での共創が開発から成果を目指すフェーズへ移行。
- ✓ コンポーネント&プラットフォーム：ポートフォリオ入れ替えを目指した開発投資を実施。成果として2021年度中の新商品上市を見込む。
- ✓ 成長投資：持続的成長に向けた土台作りとして投資のフェーズを継続。

- まず、決算の総括です。概ね想定した範囲での着地となりました。事業環境は一部に厳しさはあるものの、OKIの総合力を発揮してリカバリーできたとの認識です。
- 次に中期経営計画2022の初年度の取り組みを総括します。
- コロナ影響は大きく、特に海外は期初想定を超えて長期化しています。国内は一部顧客へ、限定的な影響がありました。
- 構造改革についてはリソースシフトや組織の見直しを予定通りに進めています。
- ソリューションシステム、コンポーネント&プラットフォームの両事業本部においては、注力領域への積極投資を進めてきました。これから成果が見える段階に入ると認識しております。これにつきましては、本日の第2部で事業本部長よりご説明を予定しています。
- PLの数字としてはまだ十分とはいえませんが、現状は成長に向けた投資を継続する段階であるとの認識です。

2020年度 通期決算の概要

- コロナ影響の長期化により売上高は予想を下回るものの、利益面では構造改革による効果が一部で顕在化
- 繰り延べ税金資産の取り崩しなどの影響により当期純損失を計上

(単位：億円)	20年度 実績	10/29 予想	予想比	19年度 実績	前年比
売上高	3,929	4,050	△121	4,572	△643
営業利益	95	85	+10	168	△73
経常利益	94	80	+14	138	△44
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	△2	10	△12	141	△143
USD平均レート(円)	105.72	110		108.93	
EUR平均レート(円)	123.48	120		120.96	

- 売上高は前年比643億円減少の3,929億円となりました。
- 前年度にあった大型案件の反動減、前年度から売上の計上基準を変更した影響、ブラジル子会社の事業を譲渡したこと、さらには新型コロナウイルスの影響が約270億円あったことなど、複数の要因が重なりました。従来予想比で121億円の減収についてはコロナ禍の長期化が想定を超えたことが要因となります。
- 損益については、コロナのマイナス影響65億円を含み、営業利益は95億円、経常利益は94億円となりました。
- また当期純利益については2億円の損失となりました。事業構造改善費用46億円を計上したことに加えて、繰り延べ税金資産の取り崩しなどもあり残念ながら最終損失となりました。
- 決算の結果を踏まえ、また経営環境を総合的に判断した結果、期末配当金については1株当たり20円といたしました。
- 期中の平均為替レートはUSD 105.72円対前年3.21円の円高、EURは123.48円と同2.52円の円安となっております。

2020年度 通期セグメント情報（売上高）

- ソリューションシステム
前年比では大型案件の反動減や売上基準変更などの影響により減少。一部にコロナ影響があるもののネットワーク関連が牽引し概ね予想どおりの着地。
- コンポーネント&プラットフォーム
海外市場を中心にコロナ禍が長期化した影響により前年比、予想比ともに減少。

(単位：億円)	20年度 実績	10/29 予想	予想比	19年度 実績	前年比
ソリュ ーシ ョ ン シ ス テ ム	1,925	1,950	△25	2,291	△366
コン ポー ネ ント & プ ラ ット フ ォ ー ム	1,965	2,050	△85	2,163	△198
そ の 他	38	50	△12	119	△81
合 計	3,929	4,050	△121	4,572	△643

- ソリューションシステムの売上高は前年比366億円の減少となる1,925億円となりました。前述した前年固有の要因からの反動減によるものです。一部顧客向けでコロナ影響もありましたが、ネットワーク関連が通年で貢献した結果、概ね予想通りの着地となりました。
- コンポーネント&プラットフォームの売上高は前年比198億円の減少となる1,965億円となりました。プリンターを中心に海外市場でコロナ禍の影響を強く受けました。予想比では自動機の成長市場であるアジア各国の市場が予想以上に停滞しています。国内市場ではコロナ禍の長期化に伴い、こちらもEMSビジネスへの影響が出ています。構造改革を推進中のプリンターについては、最悪期を脱しつつあります。
- その他の前年比減少につきましてはブラジル子会社の事業譲渡の影響が含まれていることが理由です。

2020年度 通期セグメント情報（営業利益）

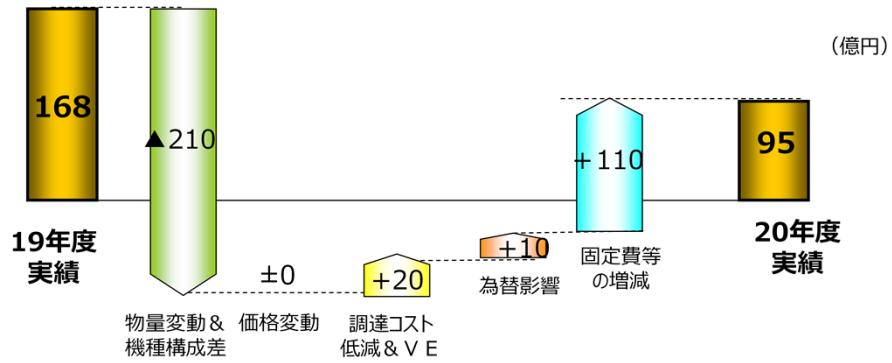
- ソリューションシステム
前年比では売上反動減の影響があるものの、予想比ではネットワーク関連を中心に改善。
- コンポーネント&プラットフォーム
海外売上高の減少影響により前年比、予想比とも減益、構造改革効果により一部リカバリ。

(単位：億円)	20年度 実績	10/29 予想	予想比	19年度 実績	前年比
ソリューションシステム	163	150	+13	202	△39
コンポーネント&プラットフォーム	△1	10	△11	52	△53
その他	△3	0	△3	△5	+2
消去・本社費	△64	△75	+11	△80	+16
合計	95	85	+10	168	△73

- ソリューションシステムは前年比39億円減少し163億円の営業利益となりました。前述の売上反動減にともなうものですが、予想比では13億円の増加となりました。
- コンポーネント&プラットフォームは、前年比53億円悪化し1億円の営業損失となりました。
自動機で通年に渡って海外市場停滞が停滞した影響は大きく、終盤の国内需要で補いきれませんでした。構造改革による効果も表れつつあるものの、残念ながら予想には届きませんでした
- 消去・本社費については、外部環境の不確実さを背景に不要不急の費用節減などの効果がありました。

2020年度 営業利益の変動要因

- 物量変動の影響が大、費用等全般の見直しで一部をリカバー。



- 営業利益変動を5億円単位でイメージチャートにしたものです。
- 全般に物量減少の影響により減益となりました。
- 構造改革効果もあり、固定費は減少しました。

2020年度 B/Sの概要

- 資産・負債の構成に大きな変化無し。
- 自己資本比率は30.3%(1.8ポイント増加)。

(単位：億円)	21年3月	20年3月	前年度末比
流動資産	2,222	2,367	△145
固定資産	1,510	1,357	+153
資産の部	3,732	3,725	+7
流動負債	1,541	1,599	△58
固定負債	1,058	1,061	△3
負債の部	2,599	2,660	△61
自己資本	1,130	1,062	+68
その他	3	2	+1
純資産	1,133	1,064	+69
負債及び純資産合計	3,732	3,725	+7
自己資本比率(%)	30.3	28.5	+1.8
DEレシオ(倍)	0.7	0.7	0

- 各資産・負債の構成に大きな変化はありません。
- 総資産は前期末からほぼ変わらず3,732億円。
- 自己資本は68億円増加の1,130億円となりました。
- 結果、自己資本比率は30.3%、D Eレシオは0.7倍となりました。

2020年度 通期キャッシュフローの概要

- フリー・キャッシュフローは36億円の収入。
- 市場環境の変化に備えて手元資金は余裕のある水準を維持。

(単位：億円)	20年度	19年度	前年差
I 営業キャッシュフロー	181	325	△144
II 投資キャッシュフロー	△145	△30	△115
フリー・キャッシュフロー(I + II)	36	295	△259
III 財務キャッシュフロー	△89	△92	+3
現金および現金同等物の残高	418	465	△47
固定資産取得額	265	163	+102
減価償却費	129	126	+3

- フリーキャッシュフローは36億円の収入超過となりました。
- 現金同等物418億円は必要十分な水準です。

2021年度 通期業績予想

- 中期経営計画2022に沿い、構造改革と成長投資と同時に増収増益を目指します。
- 年間配当金は1株当たり30円を予定。

(単位：億円)		21年度 予想	20年度 実績	前年比
ソリューション システム	売上高	1,985	1,908	77
	営業利益	165	163	2
コンポーネント& プラットフォーム	売上高	2,010	2,015	△5
	営業利益	25	△4	29
その他	売上高	5	6	△1
	営業利益	0	△1	+1
消去・本社費	営業利益	△70	△64	△6
	売上高	4,000	3,929	71
連 結 合 計	営業利益	120	95	25
	経常利益	120	94	26
	当期純利益	35	△2	37

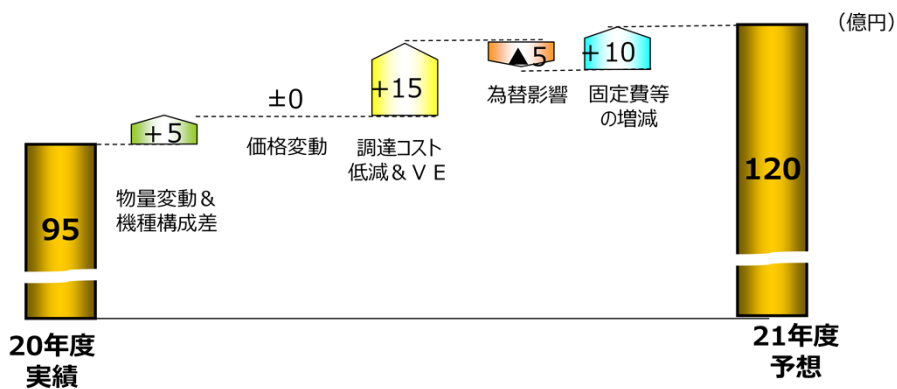
前提為替レート
USD：105円
EUR：120円

※2020年度実績はリステート後

- 業績予想数値はご覧の通りです。
- 売上高は着実な増加を目指します。必要な成長投資は行いながら、利益率の改善を図り、一連の構造改革に区切りをつけます。
- 中計の全体的な進捗状況については、社会的な環境変化の影響もあり一部に遅れもありますが、可能な限りのキャッチアップを図ります。
- 年間配当の計画は、1株当たり30円といたします。
- 前提の為替レートは、ドルが105円、ユーロは120円です。

2021年度 営業利益の変動要因

● 引き続き構造改革を推進し収益力を改善。



- 予想営業利益変動を5億円単位でイメージチャートにしたものです。
- 構造改革効果を中心に改善を見込みます。

2021年度 投資およびキャッシュフロー

投資等 (単位：億円)	21年度 予想	20年度 実績	前年差
設備投資（有形＋無形）	310	163	+147
減価償却費（有形＋無形）	140	118	+22
研究開発投資	125	112	+13

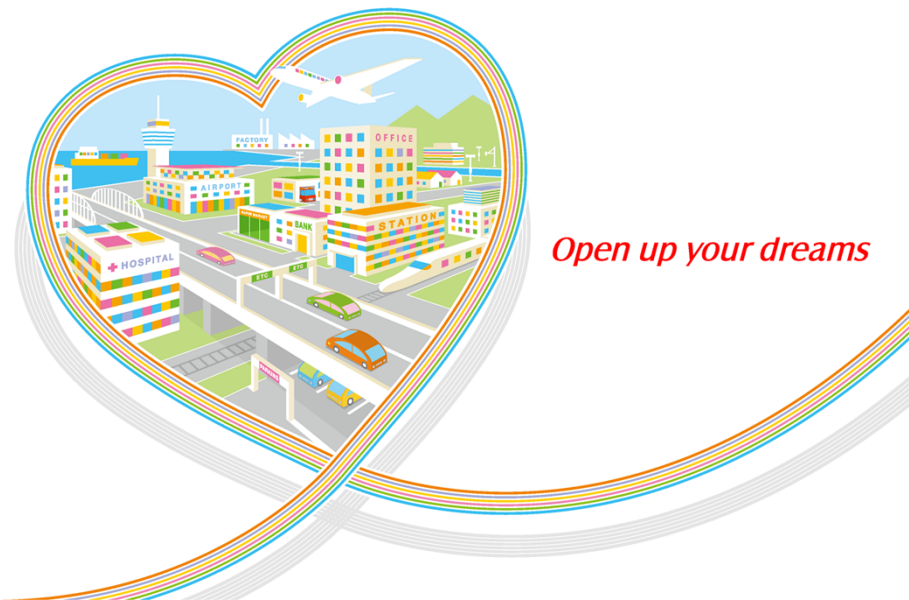
キャッシュフロー (単位：億円)	21年度 予想	20年度 実績	前年差
I 営業キャッシュフロー	220	181	+39
II 投資キャッシュフロー	△310	△145	△165
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△90	36	△126

- 設備投資については、本庄の新棟プロジェクトもあり増える予定です。
- 研究開発費については、ソリューションシステム、コンポーネント&プラットフォームともに成長投資の増を織り込みます。
- 全般に投資関連の支出が増えることから、フリー・キャッシュフローは90億円の支出を見込みます。

ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



Open up your dreams